



## 台風に対する備えを！！

台風の本格的なシーズンになりました。今年は早くから台風が発生・上陸しましたが、これからが本番になります。また、台風以外にも、ゲリラ豪雨等、天候が急に荒れることがあり、大雨や強風に対しての備えが必要になりますので、再度現場の安全管理、点検を徹底し、事故を未然に防ぎましょう。

### 強風に対する留意事項

- |            |                            |
|------------|----------------------------|
| ① 保安施設に注意  | カラーコーンなどが転倒・飛散し接触の危険があります  |
| ② 高所に注意    | 地上では風が弱くても、高所では強風の場合があります  |
| ③ 火花に注意    | 溶接時の火花が風に乗って飛散し火災の原因になります  |
| ④ クレーンに注意  | 風圧を大きくうけるので、転倒の可能性があります    |
| ⑤ 湾岸・河川に注意 | 波浪により、施設や機器が流出する可能性があります   |
| ⑥ 強風の後に注意  | 足場等にズレや傾きが生じる恐れがあります       |
| ⑦ 点検は複数で   | 点検途中で事故にあった場合、一人では連絡が取れません |



### 水害に対する留意事項

- |              |                               |
|--------------|-------------------------------|
| ① 排水対策を      | 降雨量が増えると、排水設備の許容範囲をこえる恐れがあります |
| ② 穴・段差の点検を   | 降雨により、バイクや自転車の事故の原因になります      |
| ③ 濡れた通路に注意   | 濡れた覆工板は滑りやすくなります              |
| ④ 緩んだ斜面に注意   | 切土法面、盛土等は降雨で崩れやすくなります         |
| ⑤ 機械の設置場所に注意 | 地盤の緩みで機械が転倒する危険があります          |
| ⑥ 大雨のあとは点検を  | 地盤の緩みで崩落、陥没等思わぬ危険があります        |
| ⑦ 点検は複数で     | 点検途中で事故にあった場合、一人では連絡が取れません    |

## 近畿地区建設工事安全対策推進協議会の取り組み

近畿地区建設工事安全対策推進協議会(第1回)を7/30に開催しました。

協議会は直接工事を施工する建設業界と近畿地方整備局において、労働災害の防止に取り組むことを目的とし、意見交換会や合同パトロール等の取り組みを実施しています。

協議会の中で、近畿地方整備局からは「平成27年度工事等事故防止重点対策項目(7項目)」を定め、事故防止のより一層の徹底と強化に努めるようお願いしました。

また、**平成27年度の取り組みとして、従来の合同パトロールの継続実施に加え、各部会の現場で実施されている事故防止対策の「好事例」をとりまとめ作成し、現場へ展開することで更なる事故防止対策に努める**ことを確認しました。

(協議会メンバー)

- |         |                             |
|---------|-----------------------------|
| ・土木建築部会 | (一社)日本建設業連合会関西支部            |
| ・舗装部会   | (一社)日本道路建設業協会関西支部           |
| ・鋼橋部会   | (一社)日本橋梁建設協会                |
| ・PC部会   | (一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会関西支部 |
| ・設計部会   | (一社)建設コンサルタンツ協会関西支部         |



# 平成26年度 優良工事等施工者表彰(工事安全部門)

平成26年度の優良工事等施工者表彰が決定し、安全対策関連で河川の災害復旧工事等、5工事が表彰されました。この表彰は、工事で施工実績等優良であった施工者を表彰する制度で特に安全管理を対象に表彰の対象にしています。ここで表彰された安全対策を抜粋して、紹介します。

受賞された工事は次の5工事です

国道26号他南部道路維持工事 穂谷川災害復旧他工事 国道26号宿院地区舗装修繕工事 国道26号紀の川大橋耐震工事 永平寺大野道路松岡高架橋(PD23-A2)上部工事

## 災害復旧工事現場での例



### 表彰事例

河川の復旧工事にあたり、独自に対策をしています。例えば、パトロールを通常の2倍に増やし、安全対策への意識向上をはかる。また、水際での作業では、ライフジャケットの着用、救命浮環、工事現場からの油流出対策キットを常備し、予防措置等の安全対策を積極的に採用しています。



## 「災害ゼロ」達成へむけた取組みの紹介

### ゼロ災害500日を達成



- 和歌山河川国道事務所の和歌山建設監督官詰所で平成26年4月1日から「ゼロ災」を目標に安全連絡会をたちあげ、平成27年8月13日でゼロ災害500日を達成しました。
- 詰所では約、1年半の間、毎月、安全連絡会を開催し、災害ゼロに向けて、取り組んできました。
- 写真一1 は詰所の玄関に設置した安全掲示板の写真です。目のつくところに、掲示することにより、全ての工事従事者にわかるようにし、ゼロ災害への意識を高めることができました。
- その他、労働基準監督署から講師を招き安全講話の実施、全現場の安全パトロールを実施しています。



写真一1



写真一2